

耕畜連携のモデル事例

JA鹿児島いずみ有機センターにおける 取り組みについて

鹿児島県良質堆肥生産利用推進協議会 事務局
鹿児島県農政部食の安全推進課 大久保 剛

1 はじめに

鹿児島県の農業は、温暖な気候、広大な畑地などの特性を生かして、肉用牛（黒毛和種）や養豚、養鶏（採卵鶏、ブロイラー）などの畜産、並びに家畜排せつ物由来の堆肥を活用した園芸等を中心に生産が行われており、食品加工業とも結びついた本県経済を支える基幹産業となっています。

家畜排せつ物の適正な管理や、堆肥の利用促進を進めるにあたっては、畜産農家や耕種農家はもちろん、県内の堆肥生産施設の果たす役割が重要であります。今回、JA鹿児島いずみ農協による耕畜連携の取り組み事例を紹介します。

2 堆肥センターの設置目的と主な特徴

JA鹿児島いずみ管内は鹿児島ブランドの黒牛、黒豚、バレイショ、そらまめ、紅甘夏等が主要農産物

で、肉用牛と養豚の農家戸数は約160戸となっております。

畜産農家からの家畜排せつ物の適切な処理と、耕種農家の良質堆肥利用による作物栽培に寄与するため、平成10、11年度に既存の4堆肥センターの運営改善、機能強化も併せて新たに「JA鹿児島いずみ有機センター」が設立されました。

原料ごとに搬入から製造ラインを分離、一定の発酵温度を確保しており、より高品質な堆肥生産のため、原料の配合割合を調節し、作物に応じた専用堆肥を製造しています。

ハウス、水田等にも対応した散布機が整備され、堆肥散布体制が充実しています。

また、臭気対策としてロックウール脱臭装置を完備しています。

3 施設概要

1) 利用畜産農家数 80戸（生産牛200頭、肥育牛8,400頭、養豚15,000頭）

2) 処理方式

直線型・通気スクープ式攪拌返し（処理能力 牛56t/日 豚27t/日）

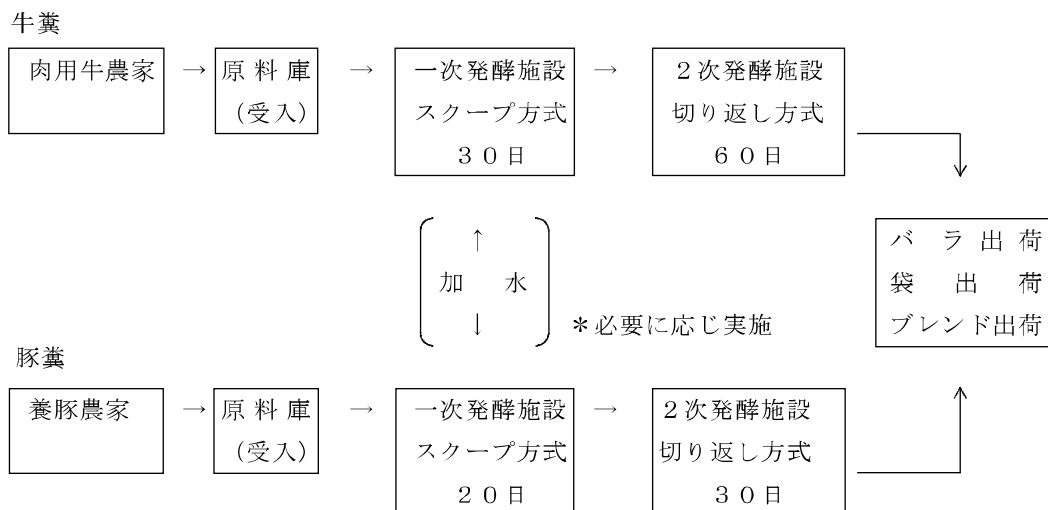
3) 施設整備
原料貯留棟・牛糞一次発酵棟（2,812m²）牛糞二次発酵棟（2,728m²）豚糞一次発酵棟（1,078m²）豚糞二次発酵棟（962m²）製品置場2棟 ロックウール脱臭棟2棟

4) 作業機等

ホイールローダ3台、4tユニック、フォークリフト、2tダンプ、トラックスケール4台
散布機2台（タイヤ、クローラ）、配達車

5) 販売量約10、330t（内バラ約77%）

4 堆肥生産工程



原料庫



1次発酵施設 直線スクープ2基×4レーン



2次発酵施設



製品置き場

5 具体的な取り組み

1) 生産技術

- ・水分調整や発酵温度管理、堆肥成分の分析を毎年実施するとともに、県堆肥コンクールにも参加し品質向上に努めています。(毎年、他4センターも含め上位入賞)
- ・原料ごとに搬入から製造ラインを分離、品質安定を図っています。また、より高品質な堆肥生

産のため、原料の配合割合を調節し、作物に応じた専用堆肥を製造します。

2) 効率的な運用体制

- ・労力軽減と従業員の職場環境を踏まえ、生産工程を自動化しています。
- ・当該センターが中心となり、他4堆肥センターにバラ散布を指示し、袋製品は一括製造しています。

3) 散布体制

- ・ハウス専用小型クローラタイプ(500k積み) 2台
- ・水田、畑作用クローラタイプ(3.5トン積み) 2台
- ・効率散布用2トントラックタイプ 1台

配達料金
525 円 / 2 t 車
車散布料金
2,625 円 / 2 t 車

4) 耕種部門との連携

- ・所管部である畜産部と園芸農産事業部とで連携し利用促進を図り、稲作部会や野菜部会の要望に応じた堆肥生産を実施しています。

・現行の原料ブレンド割合については、園芸・農産果樹推進部会で土壌診断に基づく施肥設計、実証展示を設置、生育及び収量等を調査し施肥体系を確立しています。

6 終わりに

本県は、「鹿児島県良質堆肥生産利用推進協議会」が主体となり、堆肥コンクールや堆肥生産研修等を実施し堆肥生産技術の向上に努めており、生産される堆肥の質も年々向上してきています。

今後は、より一層の生産増加が見込まれる堆肥の利活用促進等に向けて堆肥の生産技術だけでなく、今回照会しましたJA鹿児島いずみでの事例等を参考に、その利用技術、流通促進方策等、広範な課題解決に努め、環境にやさしい農業をより一層推進していきます。

都道府県協議会情報

愛知県堆肥生産利用推進協議会の活動について

社団法人 愛知県畜産協会事務局次長兼経営指導課長 成田 徳敬

1. 堆肥センター協議会の概要

本県における堆肥センター協議会の名称は、「愛知県堆肥生産利用推進協議会」と言い、平成12年8月10日に設立されました。発足当初の正会員数は30会員でありましたが、現在は、畜産農家の参加が増えたことにより51会員となっています。

協議会の組織と関係機関との連携体制は別表1の関係にあります。

事務局は、愛知県堆肥生産利用推進協議会から事務委託を受けた社団法人愛知県畜産協会に置いています。

協議会の運営・活動方針については、愛知県農林水産部畜産課が部会長を務める運営部会において事業内容等を検討し、理事会の承認を得た後、会員総会に諮り決定しています。

また、毎年度の事業実施推進の細部についても、運営部会あるいは運営部会長が招集する専門委員会と協議決定しています。運営部会及び専門部会の

メンバーは、協議内容に応じたメンバーを運営部会長が指名しています。

正会員からは、会員組織の規模等に応じた会費を徴収しており、独立行政法人農畜産業振興機構の実施している畜産環境特別対策事業の対象外事業を、単独事業として実施する財源としています。

2. 平成17年度の主な活動実績

(1) 愛知県西尾市における「堆きゅう肥生産利用研修会」の開催

当地域は、本県の水田飼料作先進地で酪農の盛んな地帯でありました。近年は、全国的な傾向に漏れず、耕種農家の高齢化や宅地化の進展により、水田への堆肥の利用量は、伸び悩みの傾向にありました。こうした地域内の実情をとらえ、西尾幡豆酪農組合員有志11名は、「堆肥利用研究会」を設立し、堆肥共励会の開催、